

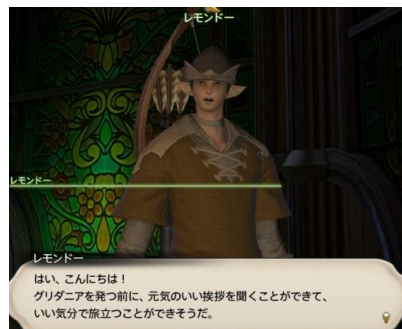
テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14 備忘ログ(PATCH2.2) サブクエスト



神経質な迂闊者

スピニング・ブレイド： おう……そこのお前、少し頼まれてくれよ……。この「飛空便搭乗券」を、渡してほしい奴がいるんだ。知り合いの「レモンドー」って男なんだが。オレが自分で渡せばいいんだが……野暮用で動けなくな……。すまんが、代わりに頼まれてくれ。奴は「グリダニア・ランディング」にいると思う。良い奴なんだが、うっかり者でな……。面倒かもしれないが、頼んだぞ。



レモンドー： そろそろ出発時刻が……。しばらくグリダニアを離れるから、忘れ物のないように手荷物の確認しないとな。ああ、こんにちは。冒険者さんもどこに行くのかい？ ……おっと、手荷物の確認をしなくちゃ。はい、こんにちは！ グリダニアを発つ前に、元気のいい挨拶を聞くことができ、いい気分が旅立つことができそうです。そういや、僕に何か用があるのかい？ 持っていますか、だって？ いったいなんの……。……ああ！ 「飛空便搭乗券」が無い！？ ど、どこにいってしまったんだ……。どこいってしまったのかな……。僕の「飛空便搭乗券」……。こ、これは、僕の「飛空便搭乗券」じゃないか！ どうしてあなたがこれを！？ ……そうか、スピニング・ブレイドのところに忘れたのか！ いやあ、うっかりしてたよ。ともかく助かった……。そろそろ、飛空便の出発時刻だったんだ。わざわざ届けてくれて、感謝するよ！ ……おっと、もう時間だ。ろくに礼もできなくてすまないけど、失礼させてもらうね。はい、さようなら。本当に助かったよ！ そうだ、ひとつだけ頼まれてくれるかい？ 「スピニング・ブレイド」に、助かったよと伝えてほしい。縁があったら、いつかどこかでまた会おうな！

スピニング・ブレイド： そうか、無事に渡してくれたか……。手間かけさせたな……。ありがとうよ。あいつは結構なうっかり者でな。ひとつのことが気になると、まわりが見えなくなる……。困った男だが……。憎めなくもあるのさ、昔からな。

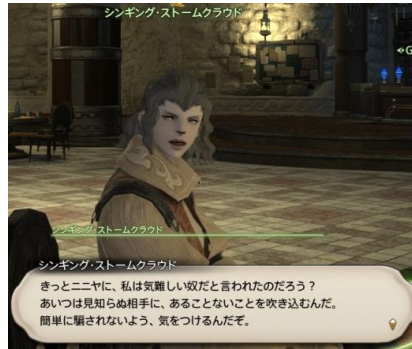
先輩の言うことにや

グレゴリー： よう、冒険者！ 見てたぞ、バデロンに認められたみたいだな。いい機会だ、海都に生きる冒険者の慣わしを教えてやろう。それは、ほかの冒険者への挨拶だ！ 先輩や仲間と上手くやっていくためには、実に大事なことから。まずは、面倒見のよい奴に顔を覚えてもらうといいだろう。そうだな、差し当たって「ニニヤ」に挨拶するといい。いろいろと教わることはあるはずだ。



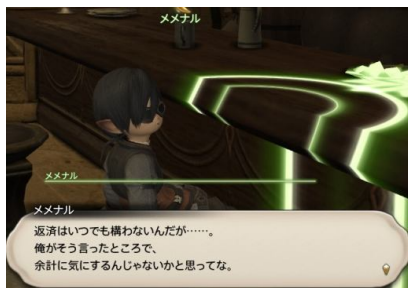
ニニヤ : おや、どうした？ 先輩である私に、挨拶にでも来たのかい？
はい、こんにちは！ うんうん、なかなか気持ちのいい挨拶だったよ。もう一回、聞かせてくれるかい？
はいはい、こんにちは！ 元気があって実にいい！ ……だけど、私のような気さくな冒険者はともかく、世の中には気難しい奴だって少なくない。
たとえば、その「**シンギング・ストームクラウド**」とかね。嘘だと思うのならば、彼女にも挨拶してみるといいよ。

シンギング・ストームクラウド : バデロンが認めた冒険者か……私に何か用か？
こんにちは、丁寧な挨拶を痛み入る。バデロンが認めたのなら、私たちは仲間のようなもの。これからよろしく頼むぞ。
……仲間だと思って忠告しておくが、冒険者として長生きしたいのなら、他人の言葉を簡単に鵜呑みにするのは、やめたほうがいい。
きっとニニヤに、私は気難しい奴だと言われたのだろう？ あいつは見知らぬ相手に、あることないことを吹き込むんだ。
簡単に騙されないよう、気をつけるんだぞ。
ふむ、そういう素直さ自体は、好ましいことだ。その心を失わずに、経験を積んでいけば、
お前はきっと、立派な冒険者になれるだろう。
応援しているぞ！ 海都に生きる、冒険者の仲間としてな！



優しい借金取り

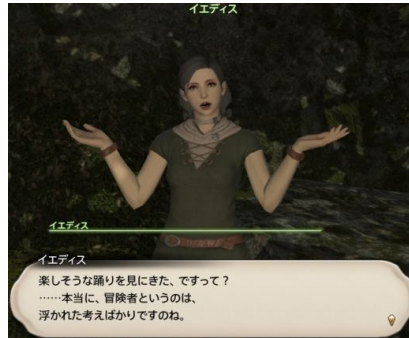
メメンル : なあ、聞いてくれよ。飲み仲間の「**ポタルフ**」って男に飲み代を貸したんだが、あいつ、金を借りたことを気に病んでいるようでさ。
返済はいつでも構わないんだが……。俺がそう言ったところで、余計に気にするんじゃないかと思ってな。
よかったら、言伝を頼まれてくれないか？ 俺からの言葉でなけりゃ、ポタルフも、すんなり受け止めてくれるだろうからさ。



ポタルフ : ハア……どうしよう……。どうやって返そうか、借金……。
やあ冒険者さん、こんにちは！ 景気はどうだい？ ……って、あんた確か、さっきメメンルさんと話して……！？
あわわわ、ど、どうしよう……。
は、はい……こんにちは……元気な挨拶ですね……。……そ、そうだよな、黙って引き下がれないよな。
……すまねえ、今はまとまった稼ぎがなくて払えねえんだ！
あんた、メメンルさんの借金取りだろ！？ メメンルさんには、ホント申し訳ねえと思ってる！
だが、もう少しだけ待っちゃもらえんだろうか……。
違うって……。あんた、借金取りじゃないのか！？ ……ふむふむ、なんだって！？ 返金は、いつでもいいっていうのか！？
ううむ……メメンルさんにや、迷惑どころか気まで使わせちゃったなあ……。
わざわざ伝えてくれてすまなかった。メメンルさんにや、自分で感謝を伝えておくよ。それじゃ、ありがとうな！
おう、さようなら！ つと、ちょっと待ってくれ。あんた、いくらがギル持ってないか？
実は……その、今持ち合わせがなくてな。
今日の飲み代が……って、いけねえいけねえ。こういう、すぐに他人にたかる根性が駄目なんだ、俺は。
メメンルさんに恩を返すためにも、このクセを直さねえとな。

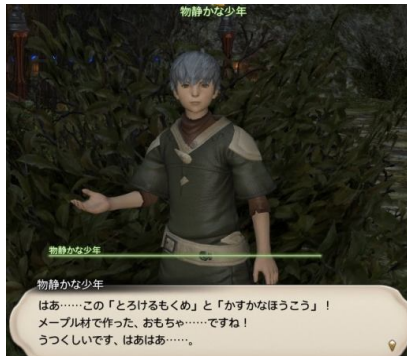
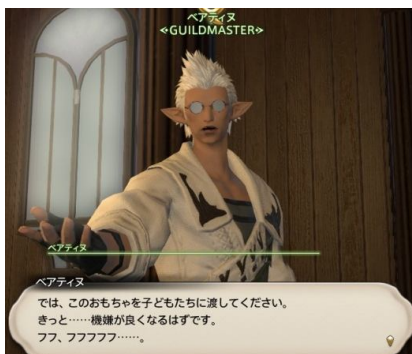
誰がために人は踊る

エラル：俺は、グリダニアの奴らのことを、とにかく真面目で、面白くない連中だと思っていた……。しかし、その印象を覆す物を見つけたんだ！
どんぐり遊園で、見慣れない美人なお姉さんが、子どもたちと一緒に、楽しそうな踊りを練習してたんだ！
もしかして、俺たちのような冒険者が知らない、楽しい祭りがあるのかもな。興味があるなら、お前も覗いてきたらどうだ？



イエディス：楽しそうな踊りを見に来た、ですって？ ……本当に、冒険者というのは、浮かれた考えばかりですね。
私は、神聖で崇高な目的のため、誠実に、真面目に、踊りを教えに来たのです？
……ま、まあ、子どもたちは飽きてしまって、練習中に逃げていってしまったのですが……。
はあ……子どもの扱いって、難しいですね……。木工師ギルドでギルドマスターを務めている方は、子どもたちと仲が良さしいのですが……。
……そうすわ！ 貴方、木工師ギルドのギルドマスターさんに相談して、子どもたちを懐柔する方法を、聞いてくれませんか？

ベアティヌ：おや、◇◇◇さん。今日は、どのような木工製品を見せてくれるのですか……！？
……そう、違いますか。フフフ……先生ガッカリです……。
……子どもたちが、踊りの練習をサボったと……？ そうですか……私が木工作業を教える時は、いつも集中しているのですが……。
では、このおもちゃを子どもたちに渡してください。きっと……機嫌が良くなるはずです。フフ、フフフフフ……。



元氣な少年：えー、踊りの練習なんて嫌だよ。イエディス先生の練習、退屈なんだもん。
あ、ベアティヌ先生のおもちゃ！ 物で釣ろうだなんて、汚いおとなだなー。でも、しょうがないから真面目に練習してあげる！

快活な少女：踊りの練習って、つまんなーい！ おもちゃで遊びたいー！
これって、ベアティヌ先生が作ったおもちゃだ！ さては……「わいろ」ってやつね！？ わかったよ、ちゃんと練習もするよ〜。

物静かな少年：うーんと、りょうてを振って…… 左上右下……こっちは右上左上か…… はあ、むずかしいなあ。
はあ……この「とろけるもくめ」と「かすかなほうこう」！ メーブル材で作った、おもちゃ……ですね！
うつくしいです、はあはあ……。
……へへ、ベアティヌ先生の真似だよ。先生のおもちゃで遊ぶ前に、練習を終わらせなきゃ！

イエディス : ありがとうございます。子どもたちが戻ってきて、とても真面目に、踊りの練習をしてくれましたわ！
この舞は、毎年の収穫祭で踊っていますのよ。豊稷の神ノフィカ様と、森の精霊たちに、
森の恵みを感謝するための踊りなのです。
あまり、他所の方には教えないですけど…… 今回のお礼に、貴方には教えてさしあげますわ。
あら、飲み込みがいいですね。とっても美しく、優雅に踊れていますわよ？



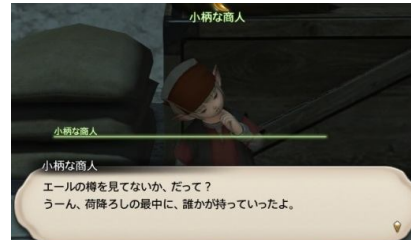
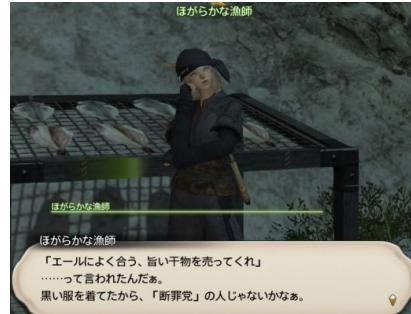
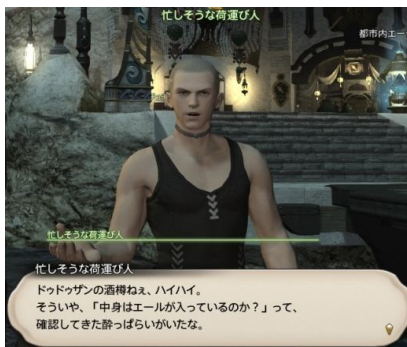
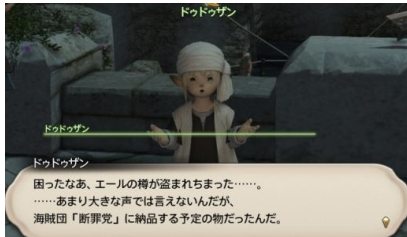
陰鬱な声の男 : と、とても、楽しそうですね……。製材中だったのですが、つい来てしまいました……。
ペアティヌ : フフ、フフフフ……。先生も仲間に入れてください……。フフフ……。
さもないと……。あなたをアッシュ材のように製材して、収穫祭で献納する槍の柄にしちゃいますよ……。フフフ……。
イエディス : ギャー……………ッ！！



元気な少年 : あのさー、ペアティヌ先生。先生の木エジョークは、「しょたいめんのじょせい」に言っちゃダメだよー！
物静かな少年 : そうだよ、ただでさえ顔が怖いんだから！ ぼくたちが、いつも先生に言ってるでしょー？
ペアティヌ : 場を……和ませたかっただけなのですが……。すみません……。ハア……。
快活な少女 : だいじょうぶ、収穫祭までにわたしたちが教えてあげるっ。豊稷の踊りじゃなくって、「おとめごろ」をね！
ペアティヌ : は、ハイ……。

こっそりバッチリ愉快的踊り

ドッドウザン：困ったなあ、エールの樽が盗まれちゃった……。……あまり大きな声では言えないんだが、海賊団「断罪党」に納品する予定の物だったんだ。
だから、黒渦団やイエロージャケットに相談するわけにもいかなくな……。ううむ。
……そうだ、こんな時の冒険者じゃないか！ 盗まれたエールを、探してきてくれんか？
エールの樽は、網倉の辺りに置いたはずなんだ。そこで聴きこみをすれば、目撃者がいるかもしれん。
どうか頼んだよ！



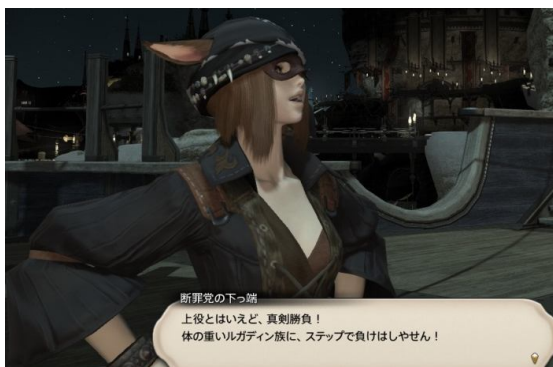
ほがらかな漁師：うーん、エールの樽かどうかはわからないけど……。大きな樽を持っている人なら、ちょっと話したよお。
「エールによく合う、旨い干物を売ってくれ」……って言われたんだあ。黒い服を着てたから、「断罪党」の人じゃないかなあ。

小柄な商人：エールの樽を見てないか、だって？ うーん、荷降ろしの最中に、誰かが持っていったよ。
アスタリシア号の方に、堂々と持っていったから、盗人には見えなかったけどなあ……。

忙しい荷運び人：ドッドウザンの酒樽ねえ、ハイハイ。そういや、「中身はエールが入っているのか？」って、確認してきた酔っぱらいがいたな。

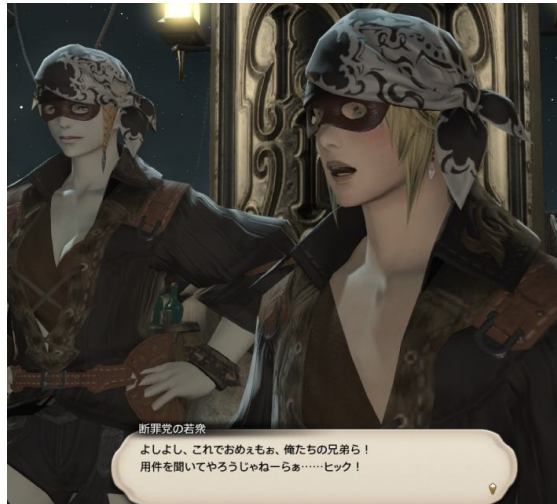
断罪党の若衆：……ヒック。今、ダンス対決が盛り上がってるんら〜！ 用事なら、後にしてくれ〜！

ムーンスケート：ウィ〜ヒックウ！ どうだ〜、そろそろ疲れてきたんじゃねえのかあ〜！？
降参するなら、今のうちだぜえ〜！



断罪党の下っ端：上役とはいえど、真剣勝負！ 体の重いルガディン族に、ステップで負けはしません！

断罪党の若衆： ヒルフィル頭領の右腕、ムーンスケート様が勝つか！？ 若手の新星が勝つか！？
ギャッハッハ、久しぶりに愉快的酒だぜえ～！
……ヒック。なんらあ、しつけないあ～。ムーンスケート様たちのダンスが気になるのかあ～？
昔々い……ええと300年前え、あるところに、**「禁欲提督」**って呼ばれていた、フジツボみてえに頭の固いバカ提督がいたんらよお～。
そいつはあ、酒類をすべて禁止した上に、酒宴のダンス対決までも、ご法度にしやがったんらあ～。
……でも、酒宴好きな海の民はへこたれなかったのらあ！
酒宴を監視する、お役人どもの目をごまかすためえ、窓の外から見える上半身だけを固定してえ、
下半身だけで踊るステップダンスを考えたのらあ！
すごいだろ？ ……そうかそうかあ、お前も踊りたくなったんらな……ヒック。
まあまあ、面倒な話は後回しにするのらあ！ まずは一緒に踊ろうや、そうだろう兄弟……ヒック。
よしよし、これでおめえもお、俺たちの兄弟ら！ 用件を聞いてやろうじゃねーらあ……ヒック！
んん～、エールの樽お？ それなら、俺たちが運んだのらあ！
一晩中酒宴をしてたら、前に買った分が無くなってよお～。網倉行ったら、ドウドウザンに注文してた酒があったから、
先にいただいておいたのらあ～。
どうせ、ドウドウザンには後で金を払う予定だったし、別にいーだろーがよお！ ギャッハッハ～！



ムーンスケート： ……おい、さっきおめえが持ってきた酒は、そういう経緯で手に入れた酒だったのか！？
ばっかやろお！ ドウドウザンは、海賊を恐れずに商売してくれる商人だ！
歴史ある断罪党の海賊たるもの、仁義立てを忘れんじゃねえ！

断罪党の若衆： ひいっ！！ す、す、すみません！！

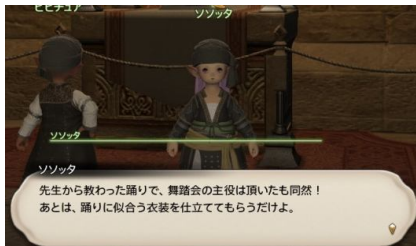
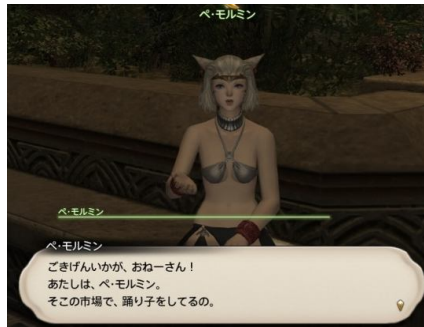
ムーンスケート： クソッ、酔いがさめちまっただけ……ダンス対決も負けだ。アンタには、迷惑をかけちまったな。
……迷惑ついだ、エールの代金を預かってくれないか。こいつをドウドウザンに渡しておいてくれや。
アンタは、ともに踊った兄弟だ。金をネコノビすることはねえと、信頼するぜ？
もしものことがあったら……貰巻きにして海送りだ。

ドウドウザン： おお、待っていたぞ！ エールの樽は見つかったか？
こいつは……エールの代金？ 断罪党の連中から……？
……なるほど、そういうことか。やれやれ、海賊との取引は面倒が多いな。
まあ、わしはウルダハから来た商人だ。きちんと金を支払ってくれる客ならば、
海賊だろうが王族だろうが……どんな身分でも構わんよ。
さて……と、次に奴らが酒宴をするまでに、エールの在庫を増やしておいてやるかね。助かったよ、ありがとうな！

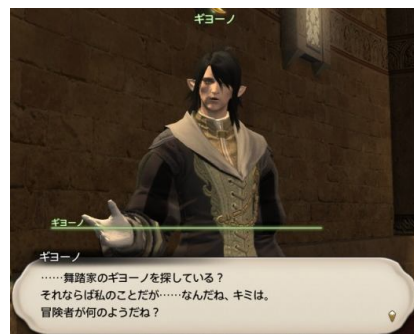
踊り子は次の舞台へ

ベ・モルミン： ごきげんいかが、おねーさん！ あたしは、ベ・モルミン。そこの市場で、踊り子をするの。
踊るのって、すっごく楽しい！ だけど……最近、このままでいいのになって悩んでるんだ。
あたし、もっと踊りを磨いて、華々しい舞台で踊りたい！ 目指すは……そう、とびきりのお金持ちだけが招待される、
ウルダハ舞踏会の華よッ！
そのためには、舞踏会向きの、お上品な踊りを覚えないと！ ……ねえ、冒険者さん、あたしに踊りを教えてくれる先生を、
一緒に探してくれないかな？
なんでも、「シャコウカイ」に入入りするご婦人に大人気の、「ギョーノ」って舞踏家の先生がいるんだって！
あたしは、この辺りで先生を探してみるから、あなたは「ザル回廊」の方をお願い。
お金持ちの人なら、きっと知ってるはずだよ！

たおやかなご婦人： ……ギョーノ先生について知りたい？ そうね……先生の教えてくださる踊りは、とても魅力的よ。
だけど、誰かが習えるわけじゃないの。
先生が踊りを教えるのは、踊りの才能を持つ者だけ……。あなたが習いたいと思っているなら、
まずは自分が「踊れる」ってことを示さないとね。



- ソソッタ：……ギョーノ先生？ もちろん知ってるわ、さっきまでお稽古だったもの！
先生から教わった踊りで、舞踏会の主役は頂いたも同然！ あとは、踊りに似合う衣装を仕立ててもらっただけよ。
……先生の居場所？ それなら「政庁層」の方じゃないかしら。ランディングへ行くと、おっしゃっていたわ。
- 麗しいご婦人：あら、ギョーノ先生のお話？ 先生といえば……クルザスの出身だって、ご存知かしら？
なんでも、踊りを教えながら世界を旅しているそうよ。
先生の教えてくださる踊りは、**イシュガルドの宮廷舞踊**から発展したものなんですって。
……そんな高貴な踊りを知る方が、なぜ旅人に？
うーん、ミステリアス！ 間もなくウルダハを発たれてしまうそうだけど、是非また、お稽古をつけてほしいわあ！
- ギョーノ：……舞踏家のギョーノを探している？ それならば私のことだが……なんだね、キミは。冒険者が何のようだね？
……もしや、弟子入り希望者か？ ならば、まずはキミが相応の「踊り」手であると証明しろ。話はそれからだ。
……何がしたいんだ？ ひやかしならば帰ってくれ。そろそろ、旅立ちの時刻なんだ。
……ほう、なかなかだな。荒削りだが、内に秘めた魂の躍動を感じる。
弟子が多くて忙しい身だが……。ふむ……ウルダハに再来する日があれば、キミに個別指導するのも、やぶさかではないな。



- ペ・モルミン：おねーさん！ 舞踏家の先生は見つかった？
うにゃッ！？ こ、このヒトがギョーノ先生！？ わわわ……えーと……その……あたし……ッ！
あたし、舞踏会で踊りたいの！ 先生ッ！ ……あたしを「イチニンマエ」の踊り子にしてくださいッ！
- ギョーノ：……なるほど、弟子になりたいのは、こちらの不躰な娘というわけか。
娘よ、このギョーノが指導するのは、踊りの才を持つ者のみ。……まずは私の踊りを真似て、キミの実力を見せてみる！
- ペ・モルミン：ゴクッ……。これが、舞踏会に通用する踊り……！
でも大丈夫。これくらい……あたしなら、きっと踊れる！ 行きますッ！！
- ギョーノ：……駄目だな。まったくもって、お話にならない。
- ペ・モルミン：そ、そんなぁ……！ どうして！？ 振り付けは完璧だったはず！
- ギョーノ：馬鹿め、重要なのは正しく踊れるかどうかではない。キミの踊りには……決定的に足りないものがある。
……そこの冒険者。今度は、キミが踊ってみろ。
- ペ・モルミン：こ、これは……！
特別に上手いわけじゃないのに…… どうして！？ 目が離せないッ……！
技術の違い？ ……ううん、違う。この人の踊りに込められているのは……人生ッ！
あたしとは、「人生の重み」が違うッ！！

ギョーノ : ……そうだ、キミの踊りは薄っぺらい。酔客の歓声に応えるだけの、安い踊りをしてきたんだろう。それが現実……キミの限界だ。
だが……己の夢まで、薄っぺらい幻想で終わらせるのか？ 舞踏会で踊りたいという情熱は、その程度なのか？
違うというなら、一步を踏み出せ！ 踊りの遥か高みへと、次の道を進む覚悟があるのなら…… 私に、ついてこいッ！

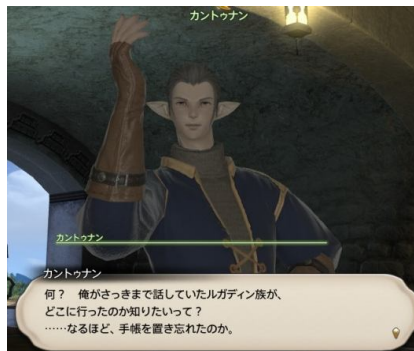
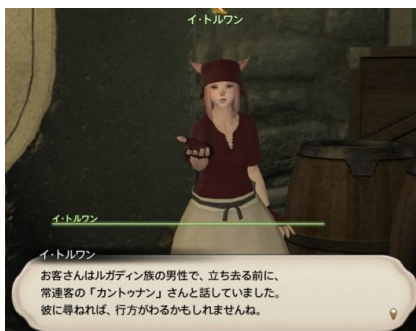
ペ・モルミン : ……あたし……あたしは……ッ！
感動しました！ おねーさん……うん、おねーさまッ！！
動きのポイントは？ 何か特別な訓練を？ 何を考えて踊ってたんですか？ 何を考えて踊ってたんですか？
重厚な人生の秘訣は、やっぱり冒険者をしてることですか？
うーっ、あたしも、おねーさまみたいになりたい！ 舞踏会のデッペンをとるためにも……
目指すは歌って戦える、冒険者系スーパーダンサー！
さっそく冒険者ギルドに登録しないと！ おねーさま、ありがとうございましたッ！



ギョーノ : ……あー……その、なんだ……。す、すべて、うまくいったみたいじゃないか！
彼女にはキミが適任だと、わ、私も思っていたんだ……うん。
でで、で、では、そろそろ飛空艇の出発時刻だ。私は次の町へ行くが、あの踊りは好きに踊ってくれていい。
……く、悔しくなんてないんだからなッ！

忘れられた攻略手帳

イ・トルワン : あらまあ、大変！ もうお店から出ていかれたあとのようですね……。
……何の話かですって？ さっきまで、お酒を飲んでいたお客さんが、この手帳を置き忘れたようなんです。
ずいぶんと使い込まれているので、きっと大切な物でしょう。もしよければ、この手帳の持ち主を探し出して、
届けてあげてくださいませんか？
お客さんはルガディン族の男性で、立ち去る前に、常連客の「カントウナン」さんと話していました。
彼に尋ねれば、行方がわかるかもしれませんね。



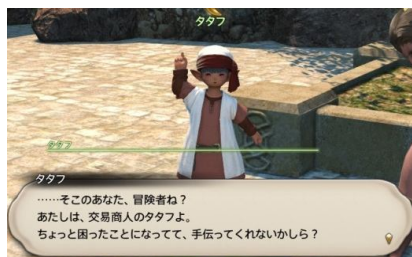
カントウナン : 何？ 俺がさっきまで話していたルガディン族が、どこに行ったのか知りたいって？
……なるほど、手帳を置き忘れたのか。
これからエールポートに向かうと言っていたから、今頃は、漁師ギルド前の船着場にいるだろうよ。
ああ、そうそう。やっこさんの名は「ワストレイド」だ。かなりの大男だから、すぐに見つかるだろうさ。

ワストレイド：なんだあ、俺っちに何の用だ？
おおっと、こいつはすまねえ。こんな大切なモンを忘れていくとは！ ……それほど酒を飲んだつもりはなかったがなあ。
こいつは「攻略手帳」といってな、俺っちの冒険者としての活動が記されてるのさ。
見たところ、お前さんは一角の冒険者のようだな。ここはひとつお礼代わりに、同輩でもあるお前さんに、
新品の「攻略手帳」を贈らせてもらおう。
この手帳には、冒険者として成すべき課題や、様々な挑戦が記されているんだ。
冒険のちょっとした目標にするといいぞ。
何より挑戦を成し遂げると、冒険者ギルドから、それなりの報酬も出るしな。
達成感と稼ぎで、いい酒が飲めるってもんさ！



種はいつしか実を結ぶ

タタフ： ああ、情けないったらありやしない！ 巨漢のルガディン族のくせに、船酔いでつぶれるなんて！
……そこのあなた、冒険者ね？ あたしは、交易商人のタタフよ。
ちょっと困ったことになってて、手伝ってくれないかしら？
海都「リムサ・ロミンサ」での仕入れを終えて、さっき港に到着したところなんだけど……。
雇った荷運び人が、このとおりの有様だね。
代わりに南東の漁村「クレセントコーヴ」にいる漁師のナナライさんまで、商品を届けてくれないかしら？
もちろんお礼はするから、頼んだわよ。

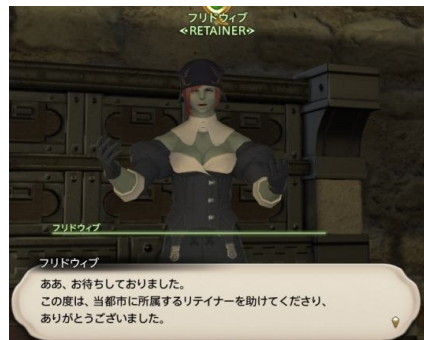
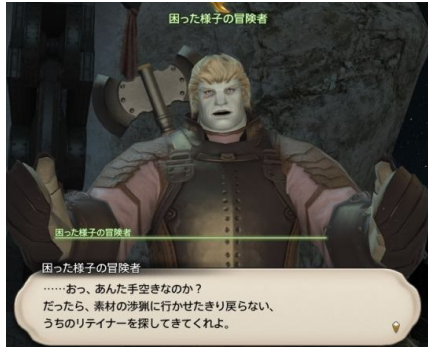


ナナライ： まだかなあ…… そろそろ届いても、いい頃合いなんだが。
おお、待っていたよ！ ……つと、この大きな麻袋、さすがに重いね！
土がぎゅっちり詰まっているだけのことはあるよ。
え……こんな土なんか買ってどうするのかって？ そりゃあ、養分たっぷりの土で畑を作って、
小さな麻袋に入っている種を植えるのさ！
震災からこっち、漁の漁獲高は減る一方だろ？ だから腹の足しにでもと、野菜を栽培しようと思っいてね。
おっと、いけない！ 代金を渡さなくっちゃ。ほら、こいつを商人タタフさんに届けてくれ。
よろしく言っといてくんな！

タタフ： おかえりなさい。商品はちゃんと渡せたようね。
……これが代金ね？ ひい、ふう、みい……うん、確かに受け取ったわ。ありがとう、助かったわよ。
それにしても、ナナライさん、なけなしのお金で、わざわざラノシアの農場から
土と種を買おうだなんて、変わってるわよね。
でも、どうにか畑での栽培を成功させてほしいわ。ああいう、頑張ってる男の人、嫌いじゃないもの。
そうそう、ちょっぴり種が余ってるから、あなたにもあげる。いつか冒険者居住区に土地を手に入れたら、
庭に畑を作って、種をまいてみるといういわよ。

リテイナーの冒険（海都）

困った様子の冒険者： まいったな……リテイナーの奴、どこで道草食ってるんだ？ リンクシエルにも応答しないなんて……。
……おっ、あんた手空きなのか？ だったら、素材の渉猟に行かせたきり戻らない、うちのリテイナーを探してきてくれよ。
あいつは「スカルバレー」あたりに向かったはずなんだが、予定の時間になっても戻ってこないんだ。
俺は仲間との待ち合わせで動けないし……。
……リテイナーを都市外に派遣していいのかって？ ちゃ、ちゃんと契約を結んでのことさ！ とにかく、頼んだからな！



新米のリテイナー： た、助かりました……。ご主人様に言われた素材を集めていたら、いつのまにか囲まれてしまっ……。
あ、いえ……ご主人様のイジフルではありません。これは、渉猟や採集を代行する「リテイナーベンチャー」というサービスなのです。
とはいえ、こんな装備で渉猟の依頼をしてくるなんて、ご主人様ったらあんまりです……。依頼にあった装備じゃなきゃ、成果を上げようにも……。ひゃっ、ご主人様からの呼び出しだ！ ……ちょっと失礼しますね。
……はい……はい……親切な方のおかげで無事です。えっ？ 今すぐ帰ってこい？ またシャードを出品なさるんですか？ すみません、急いで帰らないと……。うちのご主人様は、少々せっかちでいらっしゃいますからね。こちらが冒険の最中でも、呼び鈴リンリン待たなし！ よろしければ、あとでリムサ・ロミンサのリテイナー雇用窓口を訪ねてみてください。あなたに謝礼をお渡しするよう、僕から手配しておきます。それでは、助けてくださって本当にありがとうございました。……失礼いたします！

フリドウィブ： ああ、お待ちしておりました。この度は、当都市に所属するリテイナーを助けてくださり、ありがとうございました。今回のような事故は、普段ならば起こりえないことです。雇い主が、規約違反の無理を申し付けたのでしょう。「リテイナーベンチャー」は本来、危険のない範囲で行うもの。資産管理の合間に依頼を請ける冒険的事業のことで、我々リテイナーを、さらに活用していただくための試みです。その費用として、冒険者ギルドが発行する代替貨幣「ベンチャースクリップ」が必要になるのですが……。あなたが助けたリテイナーが、ベンチャースクリップを、お譲りしたいとのこと。……これを使って、さっそくリテイナーを派遣なさっては？ 冒険には不慣れなリテイナーのこと、最初は、思うように成果がでないかもしれません。ですが経験を積み、きつとあなたのお役にたちますよ！

リテイナーの冒険（森都）

困った様子の冒険者： まいったな……リテイナーの奴、どこで道草食ってるんだ？ リンクシェルにも応答しないなんて……。
……おっ、あんた手空きなのか？ だったら、素材の渉猟に行かせたきり戻らない、うちのリテイナーを探してきてくれよ。
あいつは「ナインアイビー」あたりに向かったはずなんだが、予定の時間になっても戻ってこないんだ。
俺は仲間との待ち合わせで動けないし……。
……リテイナーを都市外に派遣していいのかって？ ちゃ、ちゃんと契約を結んでのことさ！ とにかく、頼んだからな！

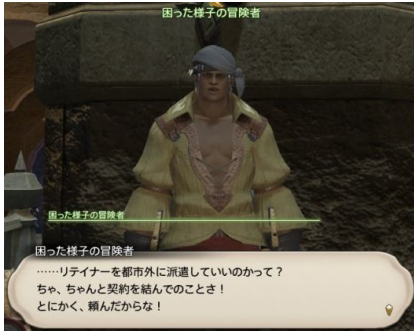


新米のリテイナー： た、助かりました……。ご主人様に言われた素材を集めていたら、いつのまにか囲まれてしまっていて……。
あ、いえ……ご主人様のイジフルではありません。これは、渉猟や採集を代行する「リテイナーベンチャー」というサービスなのです。
とはいえ、こんな装備で渉猟の依頼をしてくるなんて、ご主人様ったらあんまりです……。
依頼にあった装備じゃなきゃ、成果を上げようにも……。
ひゃっ、ご主人様からの呼び出しだ！ ……ちょっと失礼しますね。
……はい……はい……親切な方のおかげで無事です。えっ？ 今すぐ帰ってこい？ またシャードを出品なさるんですか？
すみません、急いで帰らないと……。うちのご主人様は、少々せっかちでいらっしゃいますからね。
こちらが冒険の最中でも、呼び鈴リンリン待ったなし！
よろしければ、あとでグリダニアのリテイナー雇用窓口を訪ねてください。
あなたに謝礼をお渡しするよう、私から手配しておきます。
それでは、助けてくださって本当にありがとうございました。……失礼いたします！

バーネル： ああ、お待ちしておりました。この度は、当都市に所属するリテイナーを助けてくださり、ありがとうございました。
今回のような事故は、普段ならば起こりえないことです。雇い主が、規約違反の無理を申し付けたのでしょう。
「リテイナーベンチャー」は本来、危険のない範囲で行うもの。資産管理の合間に依頼を請ける冒険的事業のことで、我々リテイナーを、さらに活用していただくための試みです。
その費用として、冒険者ギルドが発行する代替貨幣「ベンチャースクリップ」が必要になるのですが……。
あなたが助けたリテイナーが、ベンチャースクリップを、お譲りしたいとのこと。
……これを使って、さっそくリテイナーを派遣なさっては？
冒険には不慣れなリテイナーのこと、最初は、思うように成果がでないかもしれません。
ですが経験を積みめば、きっとあなたのお役にたちますよ！

リテイナーの冒険（砂都）

困った様子の冒険者： まいったな……リテイナーの奴、どこで道草食ってるんだ？ リンクシェルにも応答しないなんて……。
……おっ、あんた手空きなのか？ だったら、素材の渉猟に行かせたきり戻らない、うちのリテイナーを探してきてくれよ。
あいつは「ドライボーン」あたりに向かったはずなんだが、予定の時間になっても戻ってこないんだ。
俺は仲間との待ち合わせで動けないし……。
……リテイナーを都市外に派遣していいのかって？ ちゃ、ちゃんと契約を結んでのことさ！ とにかく、頼んだからな！

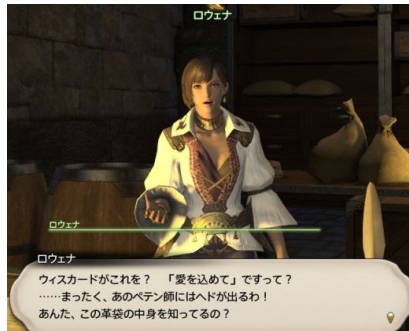
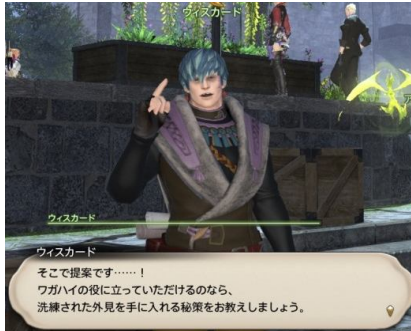


新米のリテイナー： た、助かりました……。ご主人様に言われた素材を集めていたら、いつのまにか囲まれてしまっ……。
あ、いえ……ご主人様のイジフルではありません。これは、渉猟や採集を代行する「リテイナーベンチャー」というサービスなのです。
とはいえ、こんな装備で渉猟の依頼をしてくるなんて、ご主人様ったらあんまりです……。
依頼にあった装備じゃなきゃ、成果を上げようにも……。
ひゃっ、ご主人様からの呼び出しだ！ ……ちょっと失礼しますね。
……はい……はい……親切な方のおかげで無事です。えっ？ 今すぐ帰ってこい？ またシャードを出品なさるんですか？
すみません、急いで帰らないと……。うちのご主人様は、少々せっかちでいらっしゃいますからね。
こちらが冒険の最中でも、呼び鈴リンリンまったなし！
よろしければ、あとでウルダハのリテイナー雇用窓口を訪ねてみてください。
あたなに謝礼をお渡しするよう、私から手配しておきます。
それでは、助けてくださって本当にありがとうございました。……失礼いたします！

チャチャビ： ああ、お待ちしておりました。この度は、当都市に所属するリテイナーを助けてくださり、ありがとうございました。
今回のような事故は、普段ならば起こりえないことです。雇い主が、規約違反の無理を申し付けたのでしょう。
「リテイナーベンチャー」は本来、危険のない範囲で行うもの。資産管理の合間に依頼を請ける冒険的事業のことで、
我々リテイナーを、さらに活用して頂くための試みです。
その費用として、冒険者ギルドが発行する代替貨幣「ベンチャースクリップ」が必要になるのですが……。
あなたが助けたリテイナーが、ベンチャースクリップを、お譲りしたいとのこと。
……これを使って、さっそくリテイナーを派遣なさっては？
冒険には不慣れなリテイナーのこと、最初は、思うように成果が出ないかも知れません。
ですが経験を積みば、きっとあなたのお役に立ちますよ！

幻影を着る男

ウィスカード：ワガハイは、冒険商人ウィスカード。冒険者として危険な土地に飛び込み……そして手にした情報や商材を売る、最先端の商人なのです。ところで、アナタも冒険者のようですが…… ……なんとも野暮ったい格好ですね。装備の質にこだわるのも結構ですが、そんな姿では、儲け話をモノにするどころか、美男に振り向いてもらうことすらできませんよ？そこで提案です……！ ワガハイの役に立っていただけるのなら、洗練された外見を手に入れる秘策をお教えしましょう。なにに、頼むのは簡単なシゴトです。この拠点にいるロウェナ女史に「愛を込めて」と伝え、こちらの革袋を渡すだけでいいのですから……ネ？



ロウェナ：ん、あたしに用？ 面白い取引なら歓迎よ。ウィスカードがこれを？ 「愛を込めて」ですって？ ……まったく、あのベテン師にはヘドが出るわ！ あんた、この革袋の中身を知ってるの？ これは、ウィスカードに貸し付けた金の返済金。それも遅れに遅れていた先月分のね……。愛なんて1ギルにもならないモノを、いちいち返済金に込めているヒマがあるようだから……。……そうね、今月は返済期限を前倒しするって伝えておいて。ああ、それから。あんたも、奴の「外見」には欺されないことね。奴の豪華な衣装は、全部二セモノ……。 「幻影」で着飾ってみせているけど、中身はどうしようもないクズ野郎なんだから。

ウィスカード：オウ、ブラヴォォー！ いえ、何も言う必要はありません……。ワガハイ、物陰から一部始終を見ていたのですから。激怒するロウェナ女史！ まるで、ウジの湧いたチョコボのフンでも見るような、あの冷たい軽蔑のまなざし！！ワガハイ、最高のご褒美を手にした気分です！ ……それでは次は、ワガハイが約束を果たすべきですな。教えましょう、理想の外見を手にする秘策を！ 「ミラージュプリズム」と呼ばれる、魔法が込められた小結晶を使えば……あら不思議！ ひとつの装備に、別の装備の幻影を投影できるのです！ ……幻影で着飾って何になるんだ、ですって？ 外見を変えることで、人は生まれ変わるのですよ。勇気を出し、愛を伝えることだって……ネ？ さあ、アナタにもひとつ差し上げましょう。装備へ愛を込めて、皆に見せつけるのです！

幻影を売る男

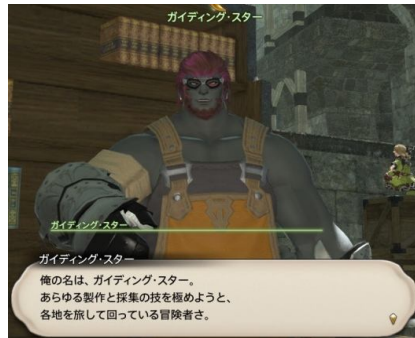
ウィスカード：おやおや、アナタは腕のいい職人でもあるそうですね。洗練された冒険商人であるワガハイの目には、本物を見分ける力があるのですよ。そこで提案です……！ ワガハイの役に立っていただけるのなら、「ミラージュプリズム」の製法をお教えしましょう。なにに、頼むのは簡単なシゴトです。愛しのロウェナ女史に「永遠の愛を込めて」と伝え、こちらの手紙を渡すだけでいいのですから……ネ？

ロウェナ：また、あたしに用？ ……今度はいったい、何だって言うのよ。またウィスカード？ 今度は「永遠の愛を込めて」ですって？ ……まったく、あのド腐れベテン師にはヘドが出るわ！ あんた、この手紙の内容を知っているの？ これは、借金返済期限を延ばしてくれと泣きつく嘆願書よ。面と向かって頭を下げることもできないなんて……。どうやら「永遠」がお好きなようだから、永遠の借金地獄に叩き落として差し上げることにするわ。……そうね、借金の利率を倍にするって伝えておいて。あいつも、いい商材を持ってるんだから、売りさばいて、とっとと借金返せばいいのよ。そうすりゃ、あたしも利息で儲けられるってもんでしょ？

ウィスカード：オウ、オウ、オウ、ブラヴォォー！ いえ、何も言う必要はありません……。ワガハイ、物陰から一部始終を見ていたのですから。激昂するロウェナ女史！ まるで、胃を病んだモルボルが吐いた何かでも見るような、あの冷え切った侮蔑のまなざし！！ワガハイ、至高のご褒美を手にした気分です！ ……それでは次は、ワガハイが約束を果たすべきですな。教えましょう、「ミラージュプリズム」の秘伝製法を！ ……と、言いたいところですが、借金の利率が上がり、このままでは生きていけません。ロウェナ女史の言葉どおり、商売に励むとしましょう……。どうか「ミラージュプリズム」の製法を記した「秘伝書」を、購入してください！ 装備への永遠の愛を、その手につかむのです！

一流の道具

ガイディング・スター：俺の名は、ガイディング・スター。あらゆる製作と採集の技を極めようと、各地を旅して回っている冒険者さ。しかし、さすがは噂に聞くレヴナンツツールだ。冒険者ギルド本部が、本腰を据えて開拓し始めただけあって、最高の人材が集まってきている。……君も、熟練の職人なんだろう？ いやいや、その「働き者の手」を見ればわかるさ。だが、一流を目指すなら道具にもこだわらないとな。もしよかったら、君愛用の道具を見せてくれないか？ 熟練職人にふさわしい道具を持っているなら……だがね。



ガイディング・スター：どれどれ、主道具を確認させてもらおうか。……なるほど、なかなか良い道具だな。だが、同時に惜しくもある……。君のように経験を積んだ職人であれば、もっと繊細な技術を求められる道具でも使いこなせるはず。そうだ、そこにいる**タラン爺**を紹介してやろう。気難しい爺さんだが、冒険者ギルドでも指折りの職人なのさ。もっとも、タラン爺の道具を手に入れるためには、彼が求めている物を調達しなければならないがね。なに、君ほどの腕があれば大丈夫だろう。そうそう、それからもうひとつ……君がクラフターとしての道を究めようというのなら、タラン爺から「**秘伝書**」を譲ってもらおうといいだろう。秘伝書というのは、熟練の職人だけが作れる難度の高い製品の製法が記されたレシピ帳でね。「道具」と「知識」は、「技術」と並ぶ職人の財産だ。常に最高の道具と、深い知識を求めてこそ、真の高みに到達できるというものさ！

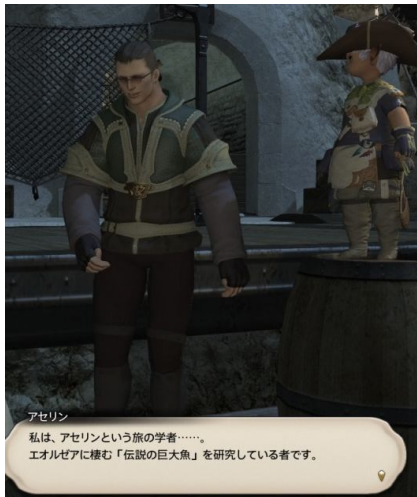
海川魚神

シシブ：あら、◇◇◇。いいところに来たわ！ さっき、親分があなたを探していたの。……なんでも、ギルドいちの漁師である、あなたにしか頼めないことがあるんですって。親分のことだから、いつもみたいに、何か適当なことをやるのかと思ったけど…… どうやら、今回は違うみたい。あの人が神妙な顔をするなんて、よっぽどのことね。きっと明日は、メガロドンが空から降ってくるわ……。親分は、いつもの場所にいるはずよ。ちょっと、話を聞いてみてもらえる？



ワワラゴ：来てくれたか、冒険者くん。チミに紹介したいやつがおってのう。

アセリン：私は、アセリンという旅の学者……。エオルゼアに棲む「**伝説の巨大魚**」を研究している者です。実は、あるところで入手した古文書を解読したところ、「**ネプトの竜**」と呼ばれる、巨大魚についての記述があったのです。その魚は、身の丈はヒューランを優に倍するほどで、大型船の船底を引き裂くほどの牙を持っていたとか……。私は、この伝説が本物であるのか、ぜひとも確かめたい！「ネプトの竜」の居所は、未だわかっていません。しかし、仮に居所をつかんだとしても、釣り上げて、伝説を証明してみせないことには意味がない……。そこで、いつか居所がわかった時のために、協力してくださる腕の立つ漁師を探していたのです。



アセリン

私は、アセリンという旅の学者……。
エオルゼアに棲む「伝説の巨大魚」を研究している者です。



ワラゴ

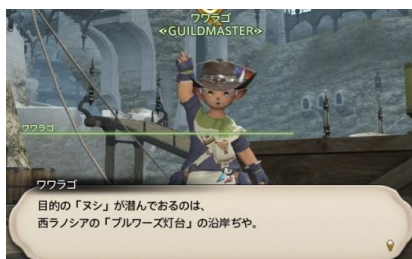
ところで、冒険者くん……。
「ヌシ」というのを知ってるかな？

ワラゴ：そして、このワシに相談に来た……というわけぢや。……ぢやが、七つの海を渡り歩いて釣りまくったワシも、さすがにいい歳ぢやろう？
どこに潜んでいるかもわからぬ「伝説の巨大魚」を探して、あちこち行くのには、ちょっと歳を取り過ぎたからのう。
でも、そんなお魚さんがいるなら見てみたいし……。
そこで目をつけたのが、漁師ギルドでワシの次に腕のいい、チミというわけぢや。
ところで、冒険者くん……。「ヌシ」というのを知ってるかな？
各地の釣り場には「ヌシ」と呼ばれる魚がおる。ほかの魚を圧倒するほどの大きさに成長し、周辺の水場に君臨する存在ぢやよ。
「ヌシ」となるほどのやつらは、そう簡単には釣れん。ワシくらい熟練の漁師でさえも……。
この者の話を聞くに、「伝説の巨大魚」を釣るには、その「ヌシ」を釣ることができるくらいの技量が必要となるぢやろう。
チミが「伝説の巨大魚」にふさわしい漁師かどうか、「ヌシ」を釣り上げて、証明してみせるんぢや。

アセリン：その「ヌシ」と呼ばれる魚……。ワラゴさんは、これまで釣ったことがあるのですか？

ワラゴ：あたりまえぢや！ ワシは、エオルゼアいちの漁師ぢやからな。
しかし、一度だけ……。それほどまでに「ヌシ」は手強いからのう。
……そうぢや、冒険者くん。手始めに、「タイタニックソー」を釣ってくるのぢや。
こいつは、エオルゼアのお魚さんのなかでも、一筋縄ではいかぬ相手……。
「ヌシ」に挑戦する前に腕を試すにはもってこいぢやろう。
目的の「タイタニックソー」は、西ザナラーンの「ウエストウインド岬」に棲んでおる。
以前教えた、「泳がせ釣り」を使うんぢや！
まず、「ラグワーム」を用意して、「メルトルゴビー」を釣り上げたまえ。
そして釣り上げた「メルトルゴビー」を泳がせ、「ワフー」を釣り上げ……。そして！
さらに泳がせて「タイタニックソー」を釣るんぢや！
……「タイタニックソー」は気難しいお魚さんぢや。限られた時間や天候でしか、釣ることはできん。
チミの腕と知識が試されるぢやろう。
見事、「タイタニックソー」を、釣ることができれば……。その時は、ワシが釣った「ヌシ」の情報を教えよう。
なかなか大変な相手ぢやが、マズラマーリンを仕留めたチミになら釣れるはずぢや。
なにせチミは、ワシが認めた漁師なのぢやからのう！

ワラゴ：どうぢやった？ 「タイタニックソー」は、釣れたかのう？
ふむ、確かに「タイタニックソー」ぢや！ やはりチミは、ワシの見込んだとおりの腕前ぢやわい。
……では、いよいよ「ヌシ」に挑戦ぢやな。
ワシが過去に一度だけ「ヌシ」を釣ったのは、かれこれ10年は前になるかのう。
それは、ものすごい引きぢやった……。あまりのワシの技量に、うっかり、エオルゼアを釣ってしまったかと思ったぞい。
目的の「ヌシ」が潜んでおるのは、西ラノシアの「ブルワース灯台」の沿岸ぢや。
あの時は、「弓角」を使っていたのう。よく晴れた日の昼ぢやったが……。すまん、時間までは覚えておらんわい……。
……「ヌシ」に挑戦するには、これまで培ってきた知識と技量……。そして、最高の道具が必要となる！
行くのぢや、冒険者くん！ ワシの次に腕の立つ、チミの力を見せてやるのぢや！



ワラゴ

ワラゴ
目的の「ヌシ」が潜んでおるのは、
西ラノシアの「ブルワース灯台」の沿岸ぢや。



アセリン

ついに「ヌシ」に挑戦するですね。
ワラゴさんでさえ、一度しか釣ったことがないという話……。
私も緊張しています。

アセリン： ついに「ヌシ」に挑戦するんですね。ワフラゴさんでさえ、一度しか釣ったことがないという話……。私も緊張しています。

ワフラゴ： どどど、どうぢやった？ 「ヌシ」を釣ることはできたかのう？
……いや、ワシでさえ偶然釣れたんぢや。いくら同じ条件で釣ったとて、そう簡単には……。



ここ、これは……！？ まさしくブルワーズ灯台沿岸の「ヌシ」、「リムレーンズソード」……！！
まさか、釣り上げることができるとはのう……。もはや冒険者クンは、ワシよりも立派な漁師かもしれん……！！
……いや、そんなことはないか。ワシに、ちょっと近づいただけくらいかの。
しかし、この「リムレーンズソード」は立派ぢやわい……。
一見大味のように見えるが、その実、若いお魚さんにはない濃厚な味。
独特の臭さも、香草と煮込むことで豊かな香りへと変わり、引き締まったほほ肉を一口食べれば、
口いっぱい「ヌシの世界」が広がる！
ああ……想像するだけでヨダレが出るわい！
こいつを食べながら酒を飲むのはたまらんぢやろうのう！ まさか、再びあの味にありつけるとは！ さて、酒の準備を……。

アセリン： ワ、ワフラゴさん……？

ワフラゴ： すまんすまん、忘れとったぞい。
ともかく、見事「ヌシ」を釣り上げた冒険者クンなら、伝説のお魚さん「ネプトの竜」を、釣り上げることができるぢやろう！

アセリン： ワフラゴさんが認めるあなたなら、私も安心できます！ ぜひ、ご協力をお願いします！
おお、ありがとうございます！ では私は、引き続き「ネプトの竜」の居所を探し求めて、
研究を続けながら旅をしてきます。
情報を得ることができたら、再びここを訪れますね！ その時は、よろしくお願いします！



アセリン

おお、ありがとうございます！
では私は、引き続き「ネプトの竜」の居所を探し求めて、
研究を続けながら旅をしてきます。

ワワラゴ : そうぢやのう。ならば、またいつ来られてもいいように、ワシらも相応の準備をしておかんとのう。
このエオルゼアには、まだ見ぬ「ヌシ」が数多くいるはずぢや。そいつらを釣りまくって、己の技量を高めておくのぢや！
それに、珍しいお魚さんを、すごい装備と交換してくれるやつがモードウナの「レヴナンツツール」におるらしいぞい。
レヴナンツツールが大きくなったと聞いて、どこからか、客目当てに来たんぢやろうな。
なんにせよ、大物と構えるためには、装備を整えておくことも大事ぢや。あとで、のぞいてみるといいぞい。
それにしても、美味しそうぢやのう……。シシブちゃんにナイショで食べちゃおうかのう！



腐朽の魔都市

エ・スミ・ヤン : お待ちしていましたよ、◇◇◇。偉大なる白魔術を身につけたあなたの力を、再びお借りしたいことがあるのです……。
依頼の主は、「三重（みえ）の幻術皇」……。グリダニアの最高指導者であらせられる
カヌ・エ・センナ様を長女とする、角尊の三姉弟。
……。三姉弟のなかでも、精霊の声をもっともよく聞きになるア・ルン様が、何やら、暗たんたる兆候を察知されたとのこと……。
兆候の源は、南部森林の「古アムダブル市街」……。第五星暦時代、魔法文明を礎に繁栄した都市の遺跡ですが、
今では結界により封じられております……。
なぜなら、かの地は靈災以降、属性の調和が乱れ、森が朽ち果ててしまったのです。
此度は、そうした危地へ赴いていただくことになります。
本来ならば、双蛇党が当たるべき案件ですが……。ア・トワ様の跡継ぎである、あなたにしか任せられないと
カヌ・エ様とア・ルン様からのたってのご指名なのです。
まずは、南部森林のキャンプ・トランギルにいらっしゃる、ア・ルン様の姉君「ラヤ・オ・センナ」様より調査の詳細をお聞きください。



ラヤ・オ・センナ : 待ってたわ、来てくれてありがとう。今回の件……かなり厄介なもんだから、ア・トワ様が跡を任せた、あんたにしか頼めなくてね。
問題の古アムダブル市街は、第五星暦時代……高度な魔法文明で栄えながら、一夜にして滅びたといわれている都市の遺跡よ。
……。もっとも、これは人の記録ではなく、森の大精霊が教えてくれたことなのだけれどね。
滅びの要因は「不浄なる闇の存在」だったとか……。
都市を一夜にして滅ぼし、それ故に封じられた闇の存在……。ア・ルンが感じたという暗たんたる気配が、
そいつの目覚めを現していたとしたら……。



???? : その先は僕から説明させて、中の姉さま。

ラヤ・オ・センナ : ア・ルン！ あんたが遅いから、あたしが説明してたんじゃない。さあ、あんたが感じてることを説明してあげて！

ア・ルン・センナ : ……急に呼び出したりして、悪かった。実は……古の都市遺跡を封じる大封扉の奥より、
暗くて、おぞましいものの胎動を感じるんだ。
森の精霊たちの動揺も、これまでに激しくて、「悪夢が目覚める」と、しきりに警告してるんだけど……。
その意味するところが、はっきりしなくて……。
そこで、取り返しがつかない事態になってしまう前に、この不吉な胎動の原因を突き止めて、
破壊の芽を摘み取ってもらいたいんだ。

ラヤ・オ・センナ : 有能な冒険者のあんただけが頼りなの、よろしくね。……古アムダブル市街を封じた大封扉の前にいる、
鬼哭隊の「アルフェス」に声をかければ、話は通じるはずよ。

ア・ルン・センナ : もしも、胎動の原因が「不浄なる闇」だとしたら……。いや、変な考えはよそう、まずは森の精霊たちを鎮めないと。
……それじゃ、後は任せたよ。

アルフェス : 三重の幻術皇より話は伺っています。古アムダブル市街へ調査に入られるのは貴方ですね。
ご協力、心より感謝します。
この大封扉の先は、霊災時に土属性の力が弱まり、腐り果ててしまった不浄の地……。
結界で封じた大扉を開けば、異様な光景が広がります。おぞましい粘菌に侵され、魔物も凶暴化している様子……。
くれぐれも、お気をつけください。ご武運を祈っております……。



ディアボロス : 我の眠りをさまたげる者は、誰だ？ アムダブルの魔道士ども……いや、違うな？
ディアボロス : 夜の闇束ね、我が盾と成さん…… 我を阻むこと叶わぬと知れ！
ディアボロス : 暗き闇紡ぎて、死を知らせる弔鐘と成せ！ ルイナスオーメン！
ディアボロス : 長き眠りで、我が力も衰えたか……

エ・スミ・ヤン : よくぞ、訪れてくれました。黒衣森を脅威より救いし、偉大なる英雄よ。
「古アムダブル市街」に立ちこめていた悪夢のような霧を払ったのは、あなただったんですね。
かつて、アムダブルの都は、白魔法を用いて繁栄を謳歌していたといえます。
……しかし、「**魔大戦**」と呼ばれる戦（いくさ）が起こった。
黒魔法を要する敵国の戦術は苛烈を窮め、ついには「**悪夢の王**」を召喚したと伝えられています。
これこそ、あなたが討伐した存在の正体でしょう……。
アムダブルの魔道士たちは、何とか、あの存在を封じ込めたようですが……。
魔法とは、かくも危険なものということです。

修練所からの挑戦状

ヒュグベルト : 昔の知り合いから、腕利きの冒険者に伝えてくれと頼まれた話があるんだが……聞いていかないか？
東ザナランの「ハラタリ修練所」という場所なんだがな。第七霊災の混乱で放棄されていたが、
少し前、冒険者の活躍によって開放されたのさ。
そのあと、剣闘士や冒険者の訓練施設にするため、しばらく再整備が行われていたんだが……
そいつが終わって、挑戦者を集めてるんだそうだ。
興味があるなら、ハラタリ修練所の「アール」を訪ねろ。その男が、参加の便宜を図ってくれるだろう。



アール : ようこそ、ハラタリ修練所へ！ ……ほう、ヒュグベルトから話を聞いて来てくれただと？
そうか、あいつ本当に話を広めてくれてるのか……。
奴は元々、コロセウムで戦う拳闘士でな。オレとしては、コロセウム財団に戻ってきてほしいのだが……
……おっと、そんな話をしたい訳じゃないよな。
……ところで、君はもしかして、ファファジョニ上等闘兵が言っていた冒険者ではないか？
ならば、いつか礼を言わねばと思っていたのだ。
我々「コロセウム財団」が、ここの再整備を進めて、修練所が真の役割を果たせるようになったのも、
すべては、君が魔物から開放してくれたおかげなのだからな。
まあ、いまだに見かけは古臭いままだし、一部の区画には、まだ魔獣も残っているのだが……
対処は銅刃団に任せているし、修練所の運営に支障はないぞ。
さあ、どうだ？ 新しいハラタリ修練所に、挑戦してみる気はないか？ 君ほどの冒険者の挑戦ならば、我々は大歓迎だ。



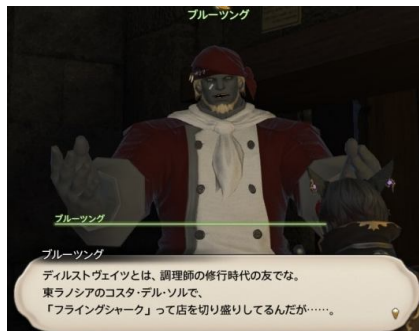
コロセウム司会 ? : 最後の試練は精鋭剣闘士たちとの乱戦だぜ！
本物の「剣闘」の始まりだ！



ヒュグベルト：コロセウム財団に戻ってこい、か……。未練がないって言えば、嘘になるんだがな……。でも今は、このレヴナンツツールで、冒険者たちの噂話を聞く毎日が楽しいのさ。

盟友の苦況、ふたたび

ブルーツング：あんた、◆◆◆じゃないか……。ちょうどよかった、ディルストヴェイツに頼まれて、あんたを探してたんだ！
ディルストヴェイツとは、調理師の修行時代の友でな。東ラノシアのコスタ・デル・ソルで、「フライングシャーク」って店を切り盛りしてるんだが……。同じく「コスタ・デル・ソル」で働いている、「ヴェイスケート」って男が、あんたに話があるらしいんだ。友の頼みだ、その男に会いに行行ってやってくれないか？



ヴェイスケート：◆◆◆か！ 来てくれたんだな、感謝するぞ！ ……実は、お前に頼みがあってな。
ブレイフロクスの奴が、また苦境に陥ってるらしい。助けたいのはやまやまだが、雇われとはいえ俺は警護長。そう軽々しく、ここを離れるわけにはいかん……。しかし、友である、奴の苦境を捨て置くこともできん。そこでお前だ、◆◆◆。再び、ブレイフロクスを助けてやってもらえないか。
俺たち元「海雄旅団」の認めるお前なら、きっとできる！ ブレイフロクスは「野営地」の前にいるはず。……彼女を頼んだぞ、英雄よ！

ブレイフロクス：シュコオ……シュコオ…… オマエ ゴブを 助けにき～た！？ さすが ゴブの盟友ゴブ！
ゴブの宿敵 やってき～た！ **ゴ布林族の科学者集団** 泣く子も黙る 「青の手」ゴブ！
アイツら 狙いは 秘伝書ゴブ！ とてとて おいしい 「ゴ布林チーズ」！
秘伝製法 門外不出 つらつら書かれたレシピ ゴブ！
「青の手」 チーズの作り方 独占してた 悪の集団！ だから ゴブが 盗んだゴブ！
そしたら 恨まれ 突撃ドッカン！
おいしいチーズ みんなのものゴブ！ チーズ独占 許せんゴブ！ 「青の手」倒して 平和ゴブ！
オマエ いっしょに 戦うゴブ～！





ブレイフロックス : シュコオ、シュコオ…… ゴ布林チーズは渡さないゴブ！

VI号ゴブリタンク : チーズレシビは 門外不出！ 我は 秘密の守護者なり～！！

VI号ゴブリタンク : シュコオ、シュコオ…… 邪魔する者は 抹殺だ～！！

ブルーツング : ディルストヴェイツは義理堅く、面倒見のいい男でな…… 修行時代には、随分とヤツには世話になっちまった。
いつか礼をしなくちゃあならん、そう思ってる。